

海洋アライアンス・イニシャティブ報告書

採択課題名：海溝のグローバル比較

主提案者：木村 学・東京大学大学院理学系研究科

共同提案者：芦 寿一郎・東京大学大学院新領域創成科学研究科

山口 飛鳥・東京大学大気海洋研究所

報告書提出日：平成 28 年 2 月 19 日

研究の目的：本イニシャティブでは、世界の海溝域の最新研究を地域別、問題別に整理し、今後の海溝型地震津波発生後の即応的研究を含めた海溝研究のグローバル展開の検索システムを構築すると共に、「世界の変動帯・海溝 2015」として成果を海洋アライアンス支援として出版する。

その意義は、日本近傍の海溝域に関する社会の認識が、日本海溝での地震津波の発生や、南海トラフでの地震津波への警戒および防災体制の構築によって大変高いレベルにある。しかし、地震動や津波災害は、日本近海以外での海溝域での発生によっても大きな被害が起こりうる。1962年のチリ地震による津波災害はその典型例である。従って、環太平洋地域に広く存在する海溝の最新知見を、整理し、その研究の蓄積に容易にアクセスできるシステムを日本語環境によって構築しておくことは、観測システムによって発せられ警報や注意報などの背景の理解、あるいは災害情報の科学的背景を社会が広く理解する上で重要な意義を持つ。このことにより、海洋、中でもその最深域である海溝域に関して日本社会全体の科学的リテラシー向上に貢献できると考える。

経過報告：東京大学出版会とは、上記申請出版名を協議によって改題、「世界の変動帯と日本列島」とし、執筆・編集作業に取り掛かっている。経費は、編集執筆実務処理に関わるもので、添付に記した通りである。

平成 28 年度中には出版予定である。現在、執筆中の目次を添付する。

はじめに

第1部 プレート沈み込み帯

1章 大西洋の 2 つの海溝と生まれつつある新生海溝

- 2章 環太平洋沈み込み帯
- 3章 インド・オーストラリアプレート vs 太平洋プレート境界
- 4章 環フィリピン海プレート沈み込み帯
- 5章 インドネシア・フィリピン海溝群
- 6章 アフリカ・アラビアプレートとユーラシアプレート
- 7章 島弧の屈曲, 衝突, 背弧海盆の形成
- 第2部 プレート衝突帯
- 8章 ヒマラヤ山脈とチベット高原
- 9章 アルプス山脈と地中海
- 10章 島弧衝突帯
- 第3部 日本列島変動帯論
- 11章 北海道・樺太変動帯形成論
- 12章 東北日本変動帯論
- 13章 西南日本変動帯論
- 第4部 残されている課題
- 14章 変動帯の始まり
- 15章 変動帯の崩壊と安定化
- 16章 変動帯・大陸地殻の成長・改変・消滅と全地球物質循環
- おわりに